

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域協力・連携を通じて、生徒一人ひとりの成長と自立を支援し、たくましく生きる人間を育てる学校をめざす。

- 1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。
- 2 規範意識や人権意識を育み、社会的に自立・貢献できる人間を育てる。
- 3 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む 21 世紀をしなやかに生きる生徒を育成する。

2 中期的目標

1 一人ひとりの学力の向上を図り、進路保障のさらなる充実を図る

(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。

- ア 少人数授業、習熟度別授業などを積極的に取り入れ、きめ細かい指導体制を確立する。
- イ 公開授業、研究授業、授業アンケート等を通じて、授業改善、授業力の向上に取り組む。
また、「学校経営推進費」を活用しプロジェクター等 ICT 機器を活用した授業改善に取り組む。
教員研修(経験豊かな教員の発表など)を通じて授業のコツ、ノウハウ等の伝達を図る。
- ウ カリキュラムの継続的な研究、開発を行う。(45分×7限授業の研究など)

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を平成 28 年度には 70%とする。

(2) 講習・補習体制をさらに充実させ、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。

- ア 生徒一人ひとりの進路支援体制のさらなる充実、学習支援体制の充実を図る。
- イ 自学自習として土曜日の活用、外部人材・学習支援員等の活用を行う。
- ウ 行事の活性化に取組み、学校生活に対する充実感を高め、学習面における側面からの補強を行う。

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導・支援体制の満足度を平成 28 年度には 85%とする。

2 規範意識、人権意識を育み、社会的に自立できる人間の育成

(1) 生徒の肉体的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。

- ア 学年団体や学年・生指部の連携を強化し、指導・支援体制の充実を図る。
学年職員室を 1,2 年に設定し、学年団意識を高める。
- イ 遅刻指導、挨拶や礼儀の指導を全教職員が継続して取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の満足度を平成 28 年度には 65%とする。

(2) 教育相談体制の充実を図り、生徒一人ひとりの支援体制を確立する。

- ア 発達障がい、不登校など生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制を保護者、関係機関と連携しながら、充実させる。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の満足度を平成 28 年度には 65%とする。

(3) 人権意識、実践力を高める教育活動のさらなる充実

- ア 情報ネット社会における人権侵害やいじめなどについて学び、人権感覚、実践力を高める。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する満足度を平成 28 年度には 70%とする

3 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、自分の考えをしっかりと主張できる教育活動を展開する。

(1) 英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。

- ア 「学校経営推進費」を活用し、 Moodle を使った e-ラーニングシステムを確立し、新しい学習スタイルの研究をする。ICT の活用などプレゼン能力を向上させる。
姉妹校交流の充実、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプの充実・発展、さまざまな国々との交流等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。

※生徒向け学校教育自己診断において、英語教育に対する満足度を平成 28 年度には 70%とする。

(2) 国際教育、E S D (持続発展教育) (ユネスコスクールの取組を含む) の充実・発展に取り組む

- ア 国際部が中心となって校内における国際教育、E S D の企画・立案を行い、教職員、生徒全体の国際教育のレベルアップを図る。
世界で活躍されている方の講演会を積極的に企画する。自分の考えをしっかりと主張できるようにする。
2014 年のユネスコスクール世界大会に向け、大阪ユネスコスクール (ASPnet) の活動に積極的に参画する。

※生徒向け学校教育自己診断において、国際教育 (ユネスコ活動を含む) に対する満足度を平成 28 年度には 85%とする。

4 学校を取り巻く変化への対応

(1) 学校の組織的運営の確立、若手教員を中心とした人材育成、ICT 機器の活用等に積極的に取り組む。

(2) 生徒会活動、学校行事、部活動等に積極的に係わる、たくましい生徒を育てる。

(3) 中高連携、高大連携、地域連携等を通じて、地域に根ざした学校づくりを推進する。

(4) 広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。

※保護者向け学校教育自己診断における保護者への連絡・情報提供の満足度を平成 28 年度 75%とする。教員向け学校教育自己診断における職場環境満足度を平成 28 年度 70%にする。

平成 28 年度の部活動加入率を 60%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○生徒授業満足度については、65%と前年度より約 10%上昇したが、さらに授業改善に取り組む必要がある。</p> <p>○生徒相談体制に関する「相談のしやすさ」については、56%と前年度より 18%向上した。さらに個々の生徒の状況に対応できるよう情報共有及び職員研修の充実を図る。</p> <p>○本校の特色である「国際教育」の満足度は 88%と非常に高い満足度であった。これは年間を通じてさまざまな行事に生徒を巻き込んで取り組んだ結果であると考える。</p> <p>○広報活動については、さらに保護者への情報発信を充実させる必要がある。</p>	<p>第 1 回 ○学校経営計画は非常によく検討されている。地域と連携できるところはしっかり連携をしていきたい。</p> <p>第 2 回 ○学校組織について、学校の縦と横の線がつながり始めたように感じる。先生方がそれぞれの持ち場で力を発揮されており、それが学校全体で縦横につながり、結果としていい取組となっていると感じる。</p> <p>○生徒の皆さんには、社会で出たときに戸惑うことなく対応できる力をしっかりとつけてほしい。そのためにも、生活面及び学習面においても、ダメなことはダメと迫る厳しさも必要である。</p> <p>○河内長野イングリッシュフェスティバルでは生徒の英語の取組をみせてもらった。とても素晴らしい発信力をつけておられると感じた。今後とも地域ぐるみで一体となって子供たちさらには地域の発展に取り組んでほしい。</p> <p>第 3 回 ○学校に新しい風が吹き始めたように感じる。縦と横の糸がしっかり繋がりはじめた。頑張ってください。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 一人ひとりの学力の向上を図り、進路指導のさらなる充実	<p>(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。</p> <p>(2) 講習・補習体制をさらに充実させ、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現を支援を行う。</p>	<p>ア 1年生数学の習熟度別授業や英語少人数授業の成果を見極め、分析・改善を図る。</p> <p>イ 授業アンケート(2回)を円滑に実施する。授業アンケート結果を踏まえ自己の授業分析を行う。</p> <p>・ICT機器の活用等授業改善、授業力向上に取り組む。</p> <p>・各自最低2回は授業見学を行いコメントを授業担当者へ手渡すことにより授業のコツ、ノウハウ等の伝達を図る。研究授業を計画実施する。</p> <p>ウ カリキュラムの継続的な研究、開発を行う。(45分×7限授業の研究など)。</p> <p>エ 学年団が一体となって、講習・補習、SHRの活用、勉強合宿や「一日勉強マラソン」を企画する体制づくりを行い、生徒の学習習慣の確立を図る。</p>	<p>ア、生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を60%以上とする。(H25 58%)</p> <p>イ、授業アンケートの満足度を60%以上とする。</p> <p>エ、生徒向け学校教育自己診断における進路指導・支援体制の満足度を80%とする。(H25 74%)</p>	<p>ア、イ授業アンケート結果 授業満足度 73.6% ↑(◎)</p> <p>・「学校経営推進費」事業によりプロジェクター等のICT機器を教室に整備。教員向け活用講習会を2回実施。</p> <p>・11月を「授業相互見学月間」として、相互見学を実施した。初任者2名(国語/英語)について研究授業を実施した。(○)</p> <p>エ 希望講習、補習、SHRを活用した漢検・英検指導については、各学年ごとに早朝・放課後・夏期休業中等継続実施した。また、3年生中心に自習室を開放した。(○)</p> <p>・学校教育自己診断進路指導満足度 80% ↑(○)</p>
2 規範意識、人権意識を育み、社会的に自立できる人間の育成	<p>(1) 生徒の人的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。</p> <p>(2) 教育相談体制の充実を図り、生徒一人ひとりの支援体制を確立する。</p> <p>(3) 人権意識、実践力を高める教育活動のさらなる充実</p>	<p>ア 学年団体制や学年・生指部の連携を強化する。引き続き、遅刻指導に重点的に取り組む。挨拶運動を教員・生徒が一体となって企画・実施する。</p> <p>イ 職員室や準備室の入室時、挨拶や礼儀の指導を全教職員で継続して取り組む。</p> <p>ウ 発達障がい、不登校など生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制を保護者、関係機関と連携しながら、充実させる。教育相談連絡会を毎月開催する。</p> <p>エ 情報ネット社会における人権侵害やいじめなど最新の状況について教職員、生徒がともに学び、人権感覚、実践力を高める。特に「情報ネット社会」の犯罪や負の部分について生徒、教職員向け研修を企画する。</p>	<p>ア、イ・生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の満足度を50%以上とする。(H25 44%)</p> <p>・年間の遅刻者数を20%減少させる。</p> <p>ウ 生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の満足度を45%以上とする。(H25 38%)</p> <p>エ 生徒向け、教職員向け学校教育自己診断における人権教育に関する満足度を65%以上とする。(H25 60%)</p>	<p>アイ学校教育自己診断生徒指導満足度 56% ↑(○)</p> <p>遅刻数は昨年度より13%減。(△)</p> <p>ウ 教育相談連絡会を月1回のペースで開催し、関係教員で情報共有した。</p> <p>・学校教育自己診断教育相談体制支援体制満足度 (53%) ↑(◎)</p> <p>エ 教職員対象の人権研修を計4回実施。また講師を招聘し、生徒向けAED講習、薬物に関する講習会、情報ネット社会の危険に関する講習会を実施した。(○)</p> <p>・人権教育満足度 [生徒] 78% ↑(◎)</p> <p>・人権教育満足度 [教員] 75% ↑(○)</p>
3 英語教育、国際教育のさらなる充実	<p>(1) 英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。</p> <p>(2) 国際教育(ユネスコスクールの取組を含む)、ESD(持続発展教育)の充実・発展に取り組む</p>	<p>ア Moodleを使ったeラーニングシステムを確立し、新しい学習スタイルの研究をする。ICTの活用などプレゼン能力を向上させる。引き続き英語指導法の研究に取り組む。</p> <p>イ 姉妹校交流の充実、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプの充実・発展、さまざまな国との交流等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。</p> <p>ウ 国際部が中心となって校内における国際教育、ESDの企画・立案を行い、教職員、生徒全体の国際教育のレベルアップを図る。世界で活躍されている方の講演会を積極的に企画する。自分の考えをしっかりと主張できるようにする。</p> <p>エ 2014年のユネスコスクール世界大会に向け、大阪ユネスコスクール(ASPnet)の活動に積極的に参画する。</p> <p>オ 英検の準2級以上の合格者数増をめざす。</p>	<p>ア 英語の研究授業を各指導法ごとに行う。</p> <p>イ 海外語学研修、イングリッシュ・キャンプの参加者の満足度を80%以上とする。</p> <p>ウ 教職員、生徒向け国際教育、ESD講演会を各学年2回以上行う。</p> <p>エ 生徒向け学校教育自己診断において、国際教育(ユネスコ活動を含む)に対する満足度を83%以上とする。(H25 81%)</p> <p>オ 英検準2級以上保持率 35% (H25 27%)</p>	<p>ア ICTを効果的に活用した初任者の英語研究授業を実施。ムードルを活用したeラーニングについて3学年とも実施した。(○)</p> <p>イ、ウ 5月 フィリピン交流 7月ニュージーランド語学研修実施。8月 ワールド牧場にてイングリッシュキャンプ実施 10月 河内長野イングリッシュフェスティバル実施。11月 姉妹校サンベリーカレッジより本校に2週間来校。交流実施。12月 校内スピーチコンテスト実施。台湾より生徒70名来校し交流実施。すべての行事の満足度 90%以上。(◎)</p> <p>エ 11月 岡山市で開催のユネスコ世界大会に生徒13名参加。地域および校内で報告会実施。</p> <p>・国際教育満足度 88% ↑(◎)</p> <p>オ ・英検2級合格者 8名 ↑ ・英検準2級合格率 64/114 (56%) ↑(◎)</p>
4 学校を取り巻く変化への対応	<p>(1) 学校の組織的運営の確立、若手教員を中心とした人材育成、ICT機器の活用等に積極的に取り組む。</p> <p>(2) 生徒会活動、学校行事、部活動等に積極的に係わる、たくましい生徒を育てる。</p> <p>(3) 中高連携、高大連携、地域連携等を通じて地域に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>(4) 広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。</p>	<p>ア 今後の学校の方向性を検討する場を維持し、学校改革を前進させる。学年職員室を1, 2年に設置し学年団意識を高める。</p> <p>イ 首席、指導教諭が中心となって若手教員の実践的な研修を継続実施し、人材育成に努める。また若手とベテランが連携した校内体制づくりをつくる。</p> <p>ウ 引き続き、内規の整備やICT機器の活用を積極的に進める。</p> <p>エ 新入生歓迎行事のリニューアル、四月ミニ文化祭の実施等により、行事、生徒会や部活動の活性化等を図る。</p> <p>オ 各教科、クラブ単位で地域の保育所、小中学校・福祉施設等地域との連携行事を積極的に企画実施する。</p> <p>カ 学校ホームページの充実、携帯メールの活用を努める。また地域の広報活動をより積極的に行う。</p>	<p>ア、イ ウ 教員向け学校教育自己診断における職場環境満足度を65%以上にする。</p> <p>エ 学校行事等の満足度 65%を目標とする。(H25 62%)</p> <p>部活動入部率を55%以上とする。</p> <p>オ参加生徒の地域連携、地域貢献の満足度を70%以上とする。</p> <p>カ 保護者向け学校教育自己診断における広報に関する満足度を70%以上とする。(H25 66%)</p>	<p>ア 教員の職場環境満足度 65%(○)</p> <p>今後は学年分掌を越えて学校全体の情報共有・組織的運営を強化する必要がある。</p> <p>イ 共有研修・授業研究を定期的実施。参加者のさらなる拡大を望む。</p> <p>ウ 内規の見直し9月までに完了。(○)</p> <p>エ 体育祭・文化祭等の生徒行事満足度 70% ↑(◎)</p> <p>部活動入部率 56% ↑(○)</p> <p>オ 地域の保育所で保育実習・市立西中学校生徒および富田林2中生との交流・富田林市保健所および武庫川女子大と連携して文化祭で「食フェスタ」発表・富田林市保健所と連携して「スポーツ栄養学講座」実施・各クラブ単位で交流実施。(◎)</p> <p>生徒の地域連携満足度 85%(○)</p> <p>カ 学年ごとの携帯メール送信開始。</p> <p>保護者広報満足度 65%(△)</p> <p>ホームページ・メール共にさらに充実を図る必要がある。</p>